

山砲畧説卷一

山砲隊兵制

オ一フルスタラーレン
砲術書抄譯

山砲隊の半隊 按よ加農六門急徹砲二門を以て一隊と定め其半分を稱する有り 三斤煩三門十一寸半の急徹砲一門不_レて各門不_レ馬四匹を股_レ其_レ一馬は砲車木の中間に在_レら_レ其_レ他の三馬は相次_テ前に列_ス但_レ一四馬共に兵士之に騎_ル○方今は更に之_ノ不_レ十一寸半の砲二個を増加_ス此_ノ砲は二個を一馬不_レて駄送_セ一_ト

以上半砲隊別々他の車を加ふことあり但し毎
 半砲隊より四個の車輪を預備とす而して半砲
 隊の定處より於ては三介煩の砲車一怒微砲の砲
 車を預備とす

彈藥は駄箱の内より納む諸器械及預備諸物はブ
 ロッコと名くる皮画の内より載し共に駄馬を以て
 輸送せし半砲隊の馬數ハ騎馬一股馬十六駄馬
 三十二合て四十九匹と以て將校の乘馬は
 此外不在り

各個の半砲隊より屬する彈藥箱及ブロッコは次の

如し其預備は上に記載する如く砲隊場より在る

合せて	預備	戰場より	彈藥箱	
			三介煩の者	怒微砲の者
			臼砲の者	歩兵騎兵の 銃包を盛 る者
			ブロッコ	
三十	六	二十四		
十二	二	十		
八		八		
二十	四	十六		
二		二		

戰場より輸る彈藥箱の装法は左の如し

加農に屬する者小は

座載せる實彈を付る煩包 八
紮縛せる霰彈を付る煩包 四
爆管 十五

煩包は四兩の装藥かして霰彈を三錢の實彈五十六
を装を装填せし弾藥は箱の重きテルフト量七十八斤
即和蘭量三十八斤五兩と云 十貫零二百
七十文余

炸藥を装しをる榴彈 四
霰彈を付る煩包 二
三兩の煩包 四
二兩二錢の煩包 二

忽微砲小屬する者小は

一兩五錢の煩包 二
爆管 十

霰彈の煩包は三兩五錢の火藥を装し霰彈の内小三
錢の實丸四十六を装し○其彈藥箱の量は和蘭の三
十二斤と云

燃藥を装せる榴彈 五
八錢の煩包 五
七錢の煩包 五
六錢の煩包 五
五錢の煩包 五

臼砲小屬する者小は

四錢の煩包

爆管

十四

此臼砲は更に二斤二兩の光弾を屬と此彈は燃る
こと四分時形状製作共小十三寸の者と同一

歩兵騎兵の銃包小屬もる者に各十六箱の内十
四箱々

歩兵銃包各七百五十

其他の二箱は各

歩兵銃包五百

騎兵銃包二百五十を装填も

此十六箱小每箱

爆管一千個を屬も

右装填せる箱の重テルト量八十四斤即和蘭の四十一
斤五兩と次

每一馬に彈藥箱二個或はブロス二個を肩ハ一馬の
肩駄もる所の重量其駄具を併せ算して次の如し

三斤煩彈藥を駄して 和蘭量 百零一斤八兩

忽微砲彈藥を駄して 同 八十八斤九兩

歩騎彈藥を駄して 同 百零七斤七兩

ブロスを駄して 同 百零五斤七兩

預備車輪を駄して 同 百斤零零八兩
 近世駄鞍の製を改め且つ輕き彈藥箱を用ゐるに
 因りて負の重太ふ減せり但し今は尚其定量を記
 載しおこしと次

半砲隊の現よ搬運もろ所の彈藥は次の如し

三斤砲ふて

實彈射 百九十二
霰彈射 九十六

忽微砲ふて

榴彈射 四十
霰彈射 二十

臼砲ふて

燒榴彈 四十

忽微砲よ用ふべき

三兩の煩包 四十
二兩二錢の煩包 二十
一兩五錢の煩包 二十

八錢の煩包 四十

七錢の煩包 四十

臼砲よ用ふべき

六錢の煩包 四十

五錢の煩包 四十

四錢の煩包 四十

歩兵銃包 一万千五百

馬銃包 五百

爆管

七百

摩管

七百

爆冒

一万六千

但し五百つ、小盒
小盛る盒數廿二

即每一門放射の數は三斤煩ふて九十六發忽微

砲ふて六十發砲砲ふて二十擲を行ふ

右の外半砲隊毎三斤煩及忽微砲の門管袋

四個各爆管三十條を盛る者を屬を又三斤煩及

忽微砲の為は預備の彈藥及爆管若干を備ふ

其數は現糧の者は同一更亦半斤の火箭は箭

料を屬する者二十個を以て不意は備へ機應

して運糧を小供を○步卒銃包の預備を五万

八千五百個騎兵銃包の預備は二十個爆冒の預

備合せて七万八千個つ小盒を盛るこ

と上の如し

山砲畧説卷二

山煩車彈藥箱及「ブロコ」の制式

「スチールナイス」野戰砲
術書抄譯

山砲車小馬を服せし者。第十二版第八圖。真形十六分の一

同側面 同 第九圖真形三十二分の一

同上面 同 第十圖真形三十二分の一

彈藥箱を負たる駄馬 同 第十一圖イ及ロ共小三十二分の一

ブロコ 同 第十二圖イ及ロ共小真形八分の一

駄鞍 同 第十三圖真形十二分の一

山煩車の重^ト和蘭量百八十五斤
三介煩の彈藥箱裝填せる者三十七斤
忽微砲の彈藥箱裝填せる者二十六斤
轍間の距離は一五八二掌八寸二分
山煩車は次の四部を以て成る

砲車木二個

軸身一個 兼て前梁と一 又此内に銃耳凹を刻し
準梁一個
輪一個

煩々軸身の上面と●準梁とに駕を

長さ 二五七掌五寸

砲車木は 廣さ 一掌零五分

厚さ 八掌六寸四分

每一個重さ 和蘭の十三斤八兩四錢五分

長さ 九掌二寸二分二厘

軸身は木を以て製し 高さ 二掌三寸一分一厘

厚さ 一掌五寸七分

重さ 和蘭の十二斤八兩四錢五分と以

軸の中央小於て煩の安處を刻窪を

長さ 七掌七寸一分八厘

準梁は一個の材を以て製す
廣さ一掌五寸七分
厚さ一掌零五分

重さ 和蘭の七斤五兩と云

準梁中小準螺母の孔を鑿徹す孔の大き和蘭の
五寸二分三厘

車輪は鍛鍊を施して
高さ一五二掌二寸九分
廣さ四寸八分

重さ各十四斤八兩二錢三分と云

其斜開三分十秒 即 零一零と云

以上木製諸部はヤチキ木を用ゆ此木を質和蘭

の「¹」イケン木と甚相類を而して稍脆此の²但一³呱
哇に於てハ能く久用に堪ふ

其鐵製部の尤かる者は

鐵鈷一

軸環二是を以て軸を砲車木に固定す

軸帶一

軸繫蹄二

裝藥具環二

上部コウス帶四

以上の諸部皆具頭繫杆と其母螺と座板とを以

て木部に結合せ

駄送弾薬箱はヤチキ木を以て製し其装填せ居
弾薬を辨識せんが為ふ蓋を被覆せる所の帆布
の色を以て區別せ即三斤煩の弾薬を装填せる
者ハ青色忽微砲の者ハ白色歩銃包の者は赤色
と次○此弾薬箱は長方形にして

- 後方の高さ 三掌二寸七分
- 前方の高さ 二掌七寸一分
- 長さ側邊は四掌九寸一分
- 短き側邊は一掌八寸五分
- 廣さ内徑小て

木の厚さ

一寸五分

煩包の藏匿處を區板を以て數局に分つ即三斤
煩の者は十二區忽微砲の者ハ八區五分
木部を槽と蓋とふして二個の強き鐵帶を以束
接以其鐵帶は全槽の周圍を包覆し更に十二個
の小鐵板を以て書較鍊と次
箱は鐵帶の後側に付せる二個の鐵環よて駄
鞍の鉤よ懸るあり
ブ口は預備諸具を藏匿し及び半砲隊出よ於
て携帶せしむ諸器具を藏せる小供と

グロコを皮を以て製を長さ五掌一寸八分廣さ
二掌二寸二分高さ前を二掌七寸九分後は三掌
一寸四分而して勾曲せる縁ある皮蓋を附を

グロコの重さ八斤四兩と云

兼馬及び股馬のハルテメント按に馬具を
詰ふるべしは務をて和

蘭砲隊の兼馬股馬の式に従ふ

鞆索は蒔藤を綯絞せる者小て後馬即砲車木の
間小在る馬の鞍に丸重襖せるホックを置く砲車
木の駄索は此ホックを貫きて動れ小を小因りて
騎手を障碍せさしむる○鞍の左右小二個方形

の大なるセイカラップを附け小因りて砲車木
の馬小楷摩をもるを防ぐ○諸馬をして共小煩車
を牽く○此の爲の襖索は山砲車小於ても亦こ
をを用ゆ○駄鞍ハ鐵造のホック一個と大なる側
木二個を以て成る大の側木は鐵帶を以てホック
に接合を○側木の鉸鍊に箱を懸くる爲の鉤を
付く○此ホック及側木ハ共小皮小く固く覆包を
○箱の馬の脇側を壓もるを防ぐ爲小側木の
下方内面小二枕を挿置は
駄鞍はオムロップ一腹帯一鞆一を以て保定を其

重さ 和蘭の十七斤二兩九錢と云
駄馬の負荷せる所の量左の如し

三斤炮 煩包ふては 百零一斤

忽微炮 煩包ふては 八十九斤

小銃包 小ては 百零七斤

ブロコ 小ては 百零五斤と云

此重量の中 駄具の重を二十四斤七兩と云 其ハ
ナセメントを和蘭小於て製作せる時は此量實小大
に減少せむべし 砲隊監官既ニ其議ある所なり

山砲畧説卷三

山砲の功力 スナイデルチイス野戦砲術書抄

山砲の能力を試ミんが為に千八百三十二年 元保三年

ミアステル・コルチレスと云へる地小於て數回の試放
を行ひ次の件々を定免多り

第一 敵一千歩 六町五間の距離小在るに當てハ

一方に三斤煩を以て二度の弧度にて發せむべし
十一寸半の忽微砲を以てハ七度の照尺に下

放射をばへし○其三介煩を準線に順ひ照準し
滾射を行ひ良勲あり

第二 敵八百歩五町二の距離小到しは三介煩
を以て一度半の弧度小て放射をばへし忽微砲
を以てハ五度の照尺小て放射をばへし

第三 七百歩四町四の距離に近うは三介煩を
以て準線小て放射し忽微砲を以ては四度の
照尺小て放射をばへし○忽微砲ハ滾射を行ひ
く良切あり

第四 六百歩四町の距離小ては三介煩は半
六町

度の弧度を以てし忽微砲は二度を以て放射
して利ありと次

第五 五百歩三町二の距離小ては三介煩を以
て實弾を放射する小は半度の弧度小て照準
すへし但し此距離小てハ已に二両弾を装せ
る鐵葉彈の放射を始むべし○忽微砲小てハ
此距離小ては一度半に照準すべし

第六 四百歩二町四の距離小ては三介煩忽微
砲共小一度の弧度小て鐵葉彈を放射して良
勲あり○三介煩を以て實弾を射る小中心射

を以て一忽微砲は一度の弧度にて照準をむ。

第七 三百歩 二町三間 の距離にては三斤煩忽微

砲共に半度の照尺にて二兩彈を装せる鐵葉

彈を放射し甚だ功績あり。此距離にては亦

忽微砲小榴彈を装し準射を行ひて大に利ありとす。○三斤煩にて小霰彈を装せる鐵葉彈

を放射し魚績あるは此距離小始まる
第八 二百五十歩 一町四間 の距離にては三斤煩

を一度半小準し小霰彈を装せる鐵葉彈を放

第九 二百歩 一町二間 にては三斤煩を一度半の

弧度小準し小霰彈を装せる鐵葉彈を放射し

て魚績最烈なり其小霰彈は水平に散開する

こと四十尺小至る。○忽微砲を以ては仍を二

兩彈を装せる榴彈を放射せむのこ
第十 百五十歩 一町一間 小至るは三斤煩は一度

の弧度にて小霰彈を装せる鐵葉彈を放射し

功最烈なり其水平の散開三十尺とす。○此距

離小至りては忽微砲を以ては小霰彈を装せ

る鐵葉彈を放射し大功あり其水平の散開六十八尺と云

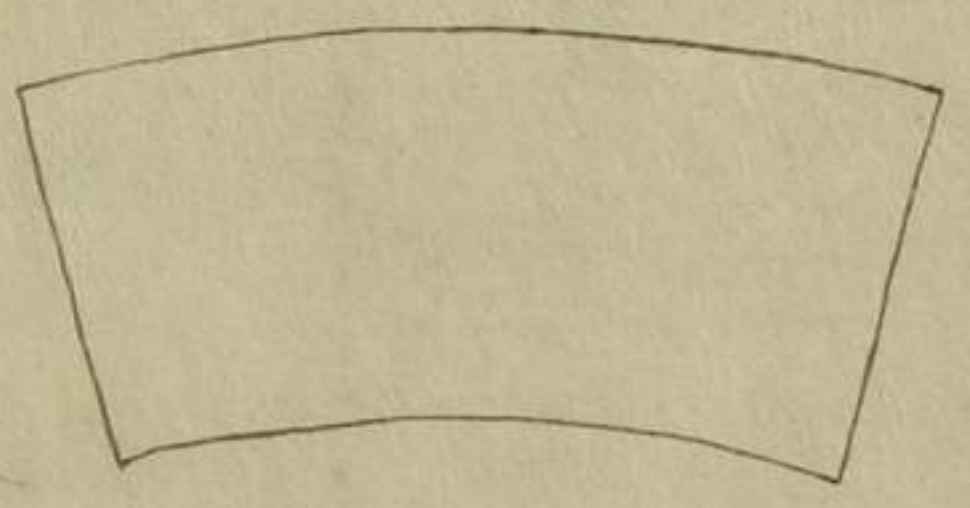
第十一 此距離以内小ては三斤煩及ひ忽微砲を以て小霰彈を装せる鐵葉彈を放射し其熱甚猛刺かり百歩の距離小ては其霰彈命中せる處と全數三分の二とし五十歩の距離小は殆ど虚彈かりるべし〇但し百歩の距離小てハ小霰彈水平に散開せること二十四尺より三十尺より至る

三斤煩小ては其準角一度十一寸半の忽微砲小てハ十七分半と云〇三斤煩小ては中心環及照尺を用ゆる者其照尺は二級の者小て一度半の弧度小は高さ一寸二分四厘射距離八百歩と云二度の弧度小は高さ二寸四分一厘射距離一千歩と云〇中心射の射距離ハ四百歩小して準射の射距離ハ七百歩と云〇忽微砲小てハ準角の小なる小よりて中心環を用ゆること系し其照尺ハ三級の者小して一度の弧度小は高さ一寸六分二厘射距離四百歩一度半の弧度小は高さ二寸七分七厘射距離五百歩二度

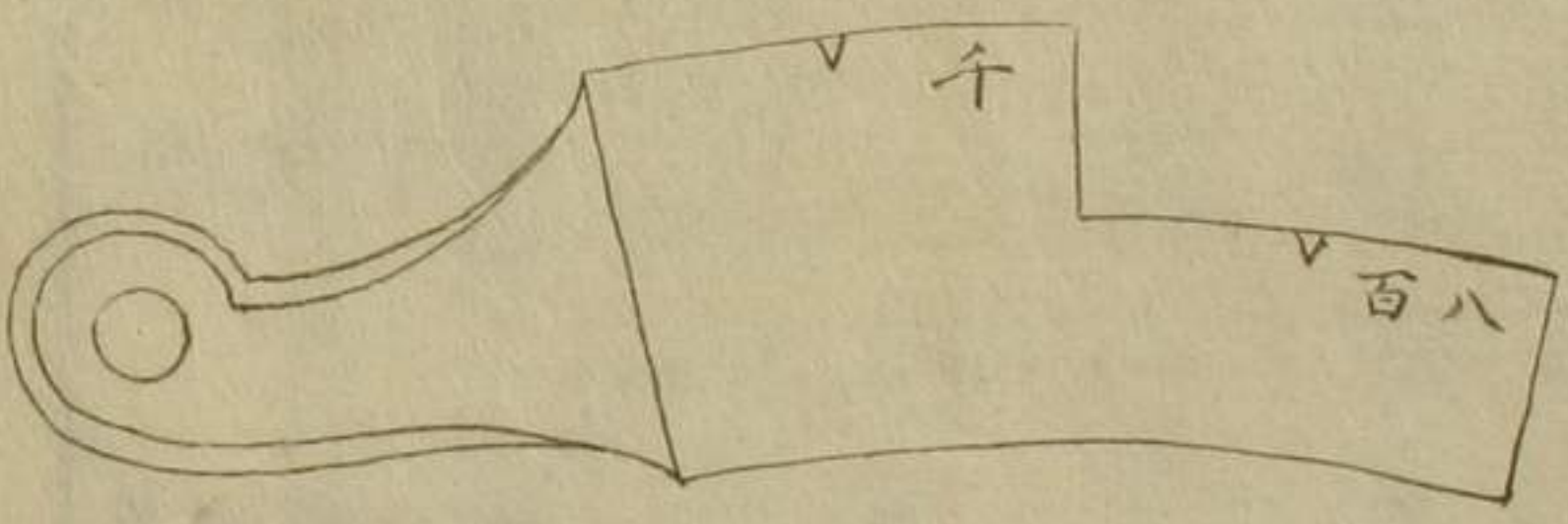
和蘭式三斤砲を一丁其重量を
減し舊秤二百三十斤に至らしむ
る尺表

砲長衝底後より劈前がごと 二二三五	砲腹の長さ 二二五八	砲腹各處の外橋を存せし 徑 ●七五二	後身及び前身、合せし一個 の圓柱と爲り諸節帯を 除き去り衝底後と頭の 前と小各一扁帯を存せし	衝底名の扁帯(廣き) ●四二	衝底名の扁帯(徑後角少) ●二〇〇	頭の扁帯(廣き) ●三〇〇	頭の扁帯(徑り前少) ●一五五	衝底後と頭との扁帯の面を準 線小徑と定む	所扁帯の間の圓柱の徑 火門の處小く ●一七五	頭后少く ●一六〇	圓帯兩扁帯小接をも圓形の半徑 ●一五〇
----------------------	---------------	-----------------------	---	-------------------	----------------------	------------------	--------------------	-------------------------	------------------------------	--------------	------------------------

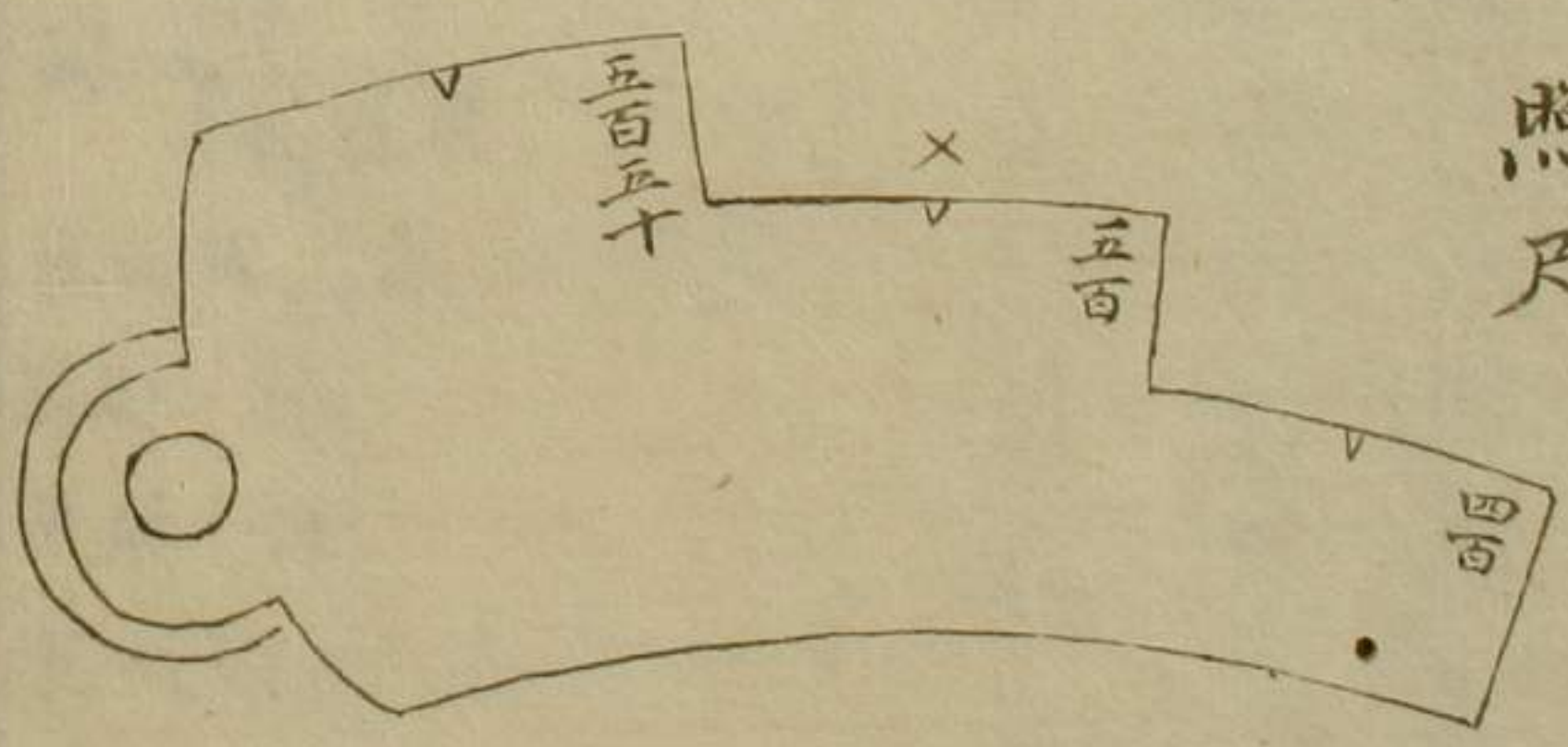
三斤煩
中心環



三斤煩
照尺



忽微砲
照尺



尾珠と衝底厚と、橋を存せ
砲耳ハ橋を存せ

耳座の下半圓之上半圓小同
但一鐵厚減せるの故を以て

耳座の面許砲の下面外小出
砲腹の面より上角

全長

砲腹の面より上角より二寸半の間の

火門高

砲腹上角より一寸二分半の處

〇〇〇八七
其他を改換す

和蘭式三斤短砲を改鑄し十英吉利

四寸又五分二口徑の惣鐵砲と為候尺

度表

衝底后より、喙小至る長さ

一、三三九七

砲腹の長さ

一、二六四五

同

砲腹の底を圓形と為せしこと

〇、〇一三五

長さ三斤短砲の最高帶

〇、〇一三五

右の狹帶の后より后界段

〇、〇一三五

後舉

のホギイテ、小至る長さ

尾珠と衝底厚と、橋を存せ

砲耳ハ橋を存せ

耳座の下半圓之上半圓小同
但一鐵厚減せるの故を以て

耳座の面許砲の下面外小出
砲腹の面より上角

全長

砲腹の面より上角より二寸半の間の

火門高

砲腹上角より一寸二分半の處

〇〇〇八七
其他を改換す

和蘭式三斤短砲を改鑄し十英吉利

四寸又五分二口徑の惣鐵砲と為候尺

度表

衝底后より、喙小至る長さ

一、三三九七

砲腹の長さ

一、二六四五

同

砲腹の底を圓形と為せしこと

〇、〇一三五

長さ三斤短砲の最高帶

〇、〇一三五

右の狹帶の后より后界段

〇、〇一三五

後舉

のホギイテ、小至る長さ

同

徑後小

其上面を準線かく定む

長さ三斤砲の後界段の本より

の後ろより前段の本より

中身

後小至るに同

徑三斤砲小同

長さ三斤砲の前界段の本より

の後ろより喙の狹帶小至るに同

前身徑小依る

頭の喙前の凹帶を除き去る

其他を頭蓋の如し

尾珠及衝底橋の如し

衝底

最高帶小狹帶ホギイテ、帶を共に除き後身の面

於テ

と平小切先

兩帶を除き去る後身の

面と平小切ホギイテ、凹

形圖片とを、後身の

節帶

小於テ上角を過ぎ、中身の

接せしむ

扁帯を除く中身の面

と平かゝりキチは

凹形の圓片とを一中身

山形

の上角を適量で削

身も接せしむ

砲身及び耳座を共小箱小依る

砲把を除き去る

火門を前小出せしむ三介砲の尺度

三同一火新の火門管を續入せしむ



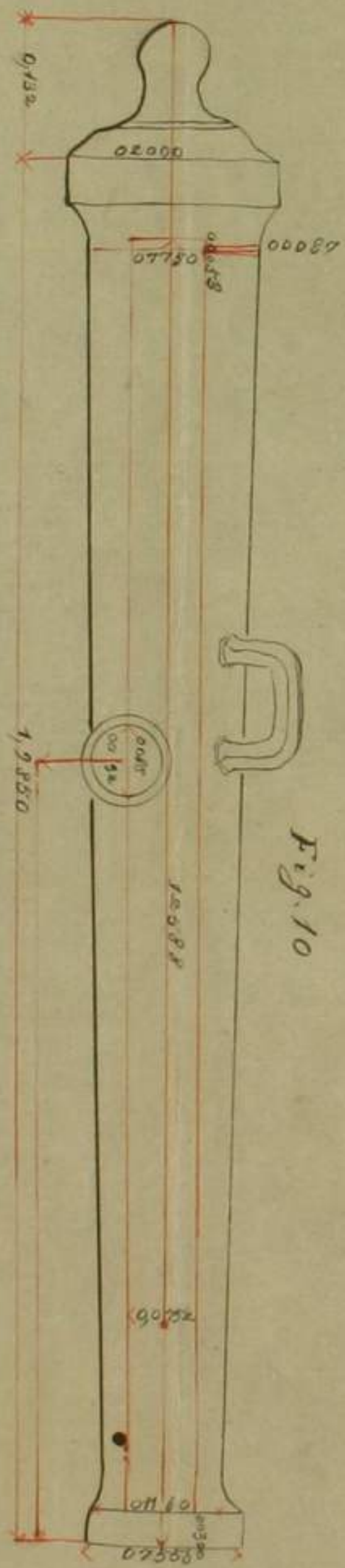
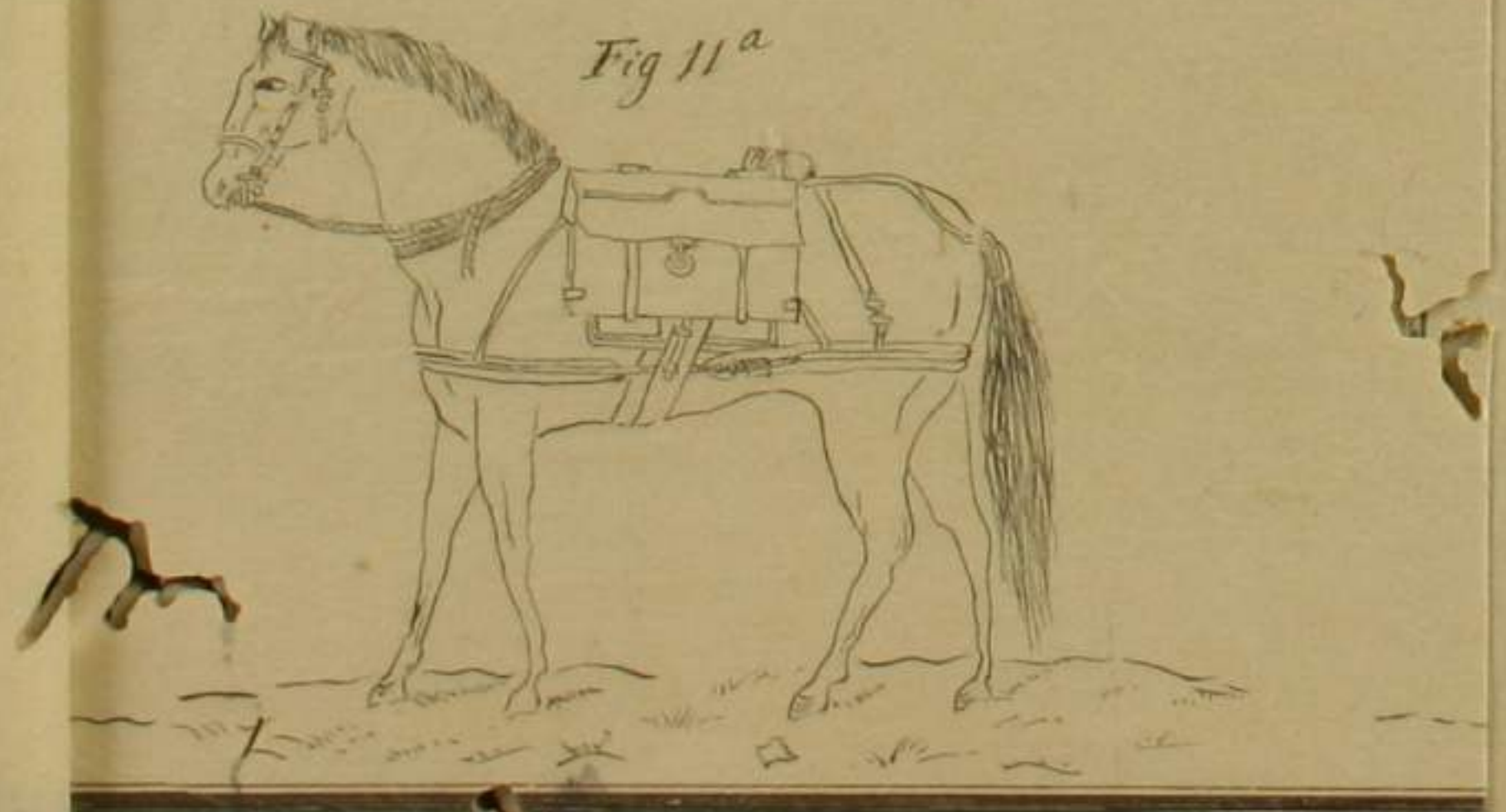
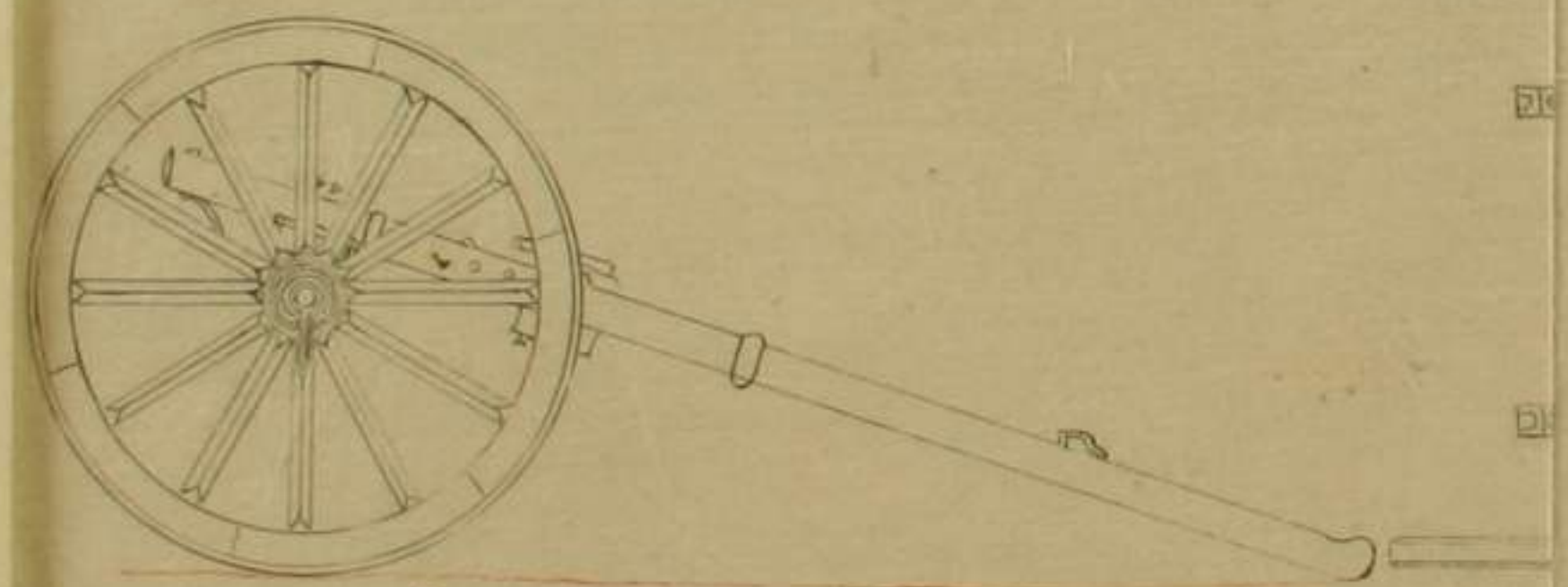
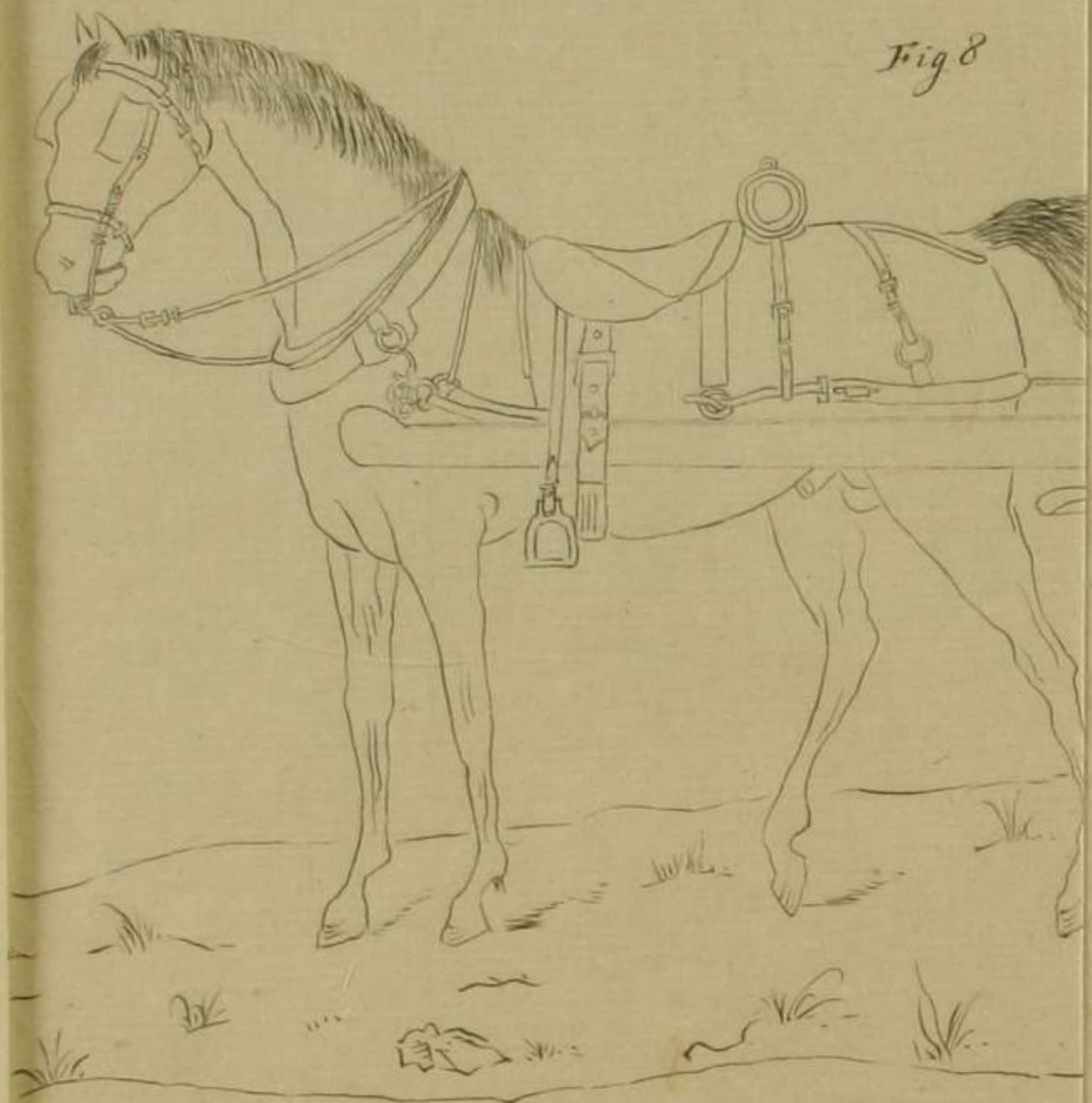


Fig. 10

せしむ
 帯を捺す中身の面
 平ふかし和キリは
 形の圓片と同一中身
 六角を適量下前
 小捺せしむ
 共小捺小捺す
 ても二介尺の尺度
 管を躰入せし



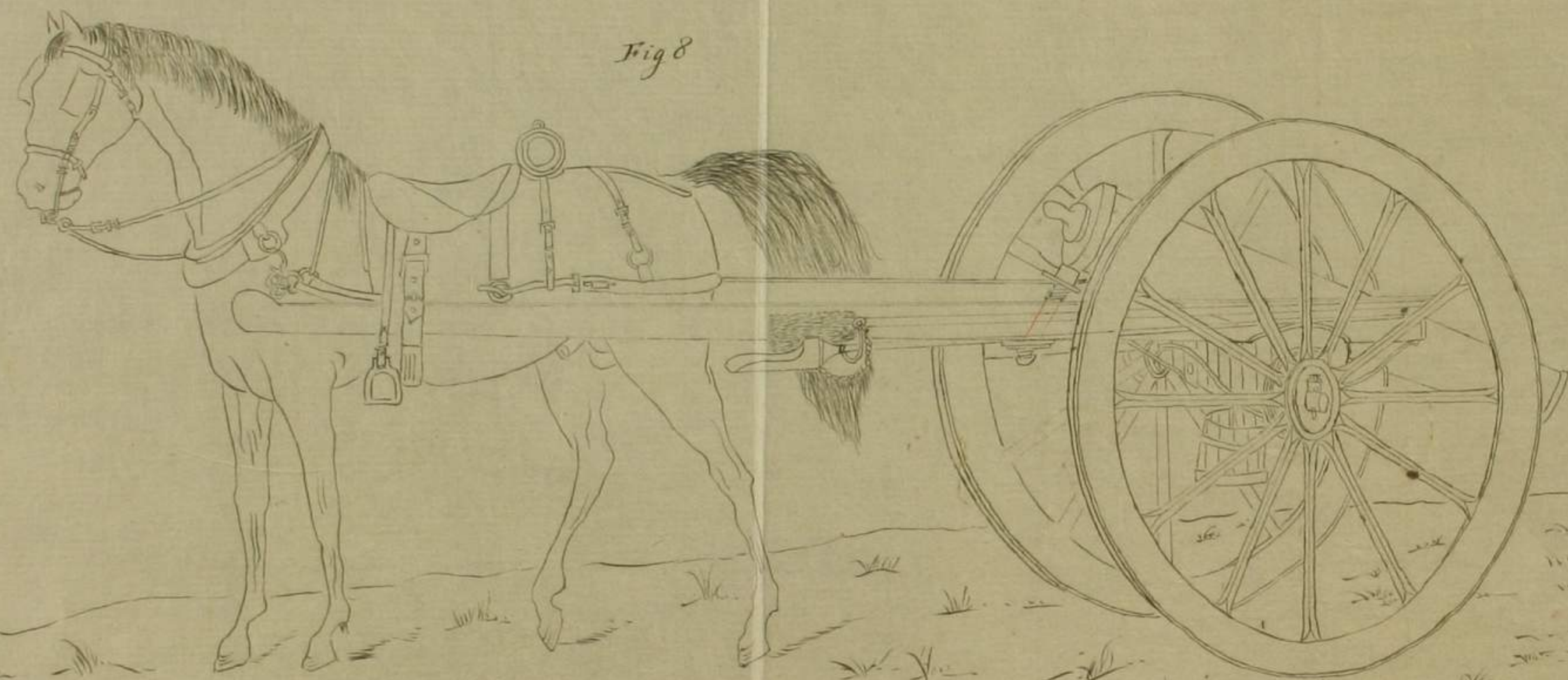


Fig 8

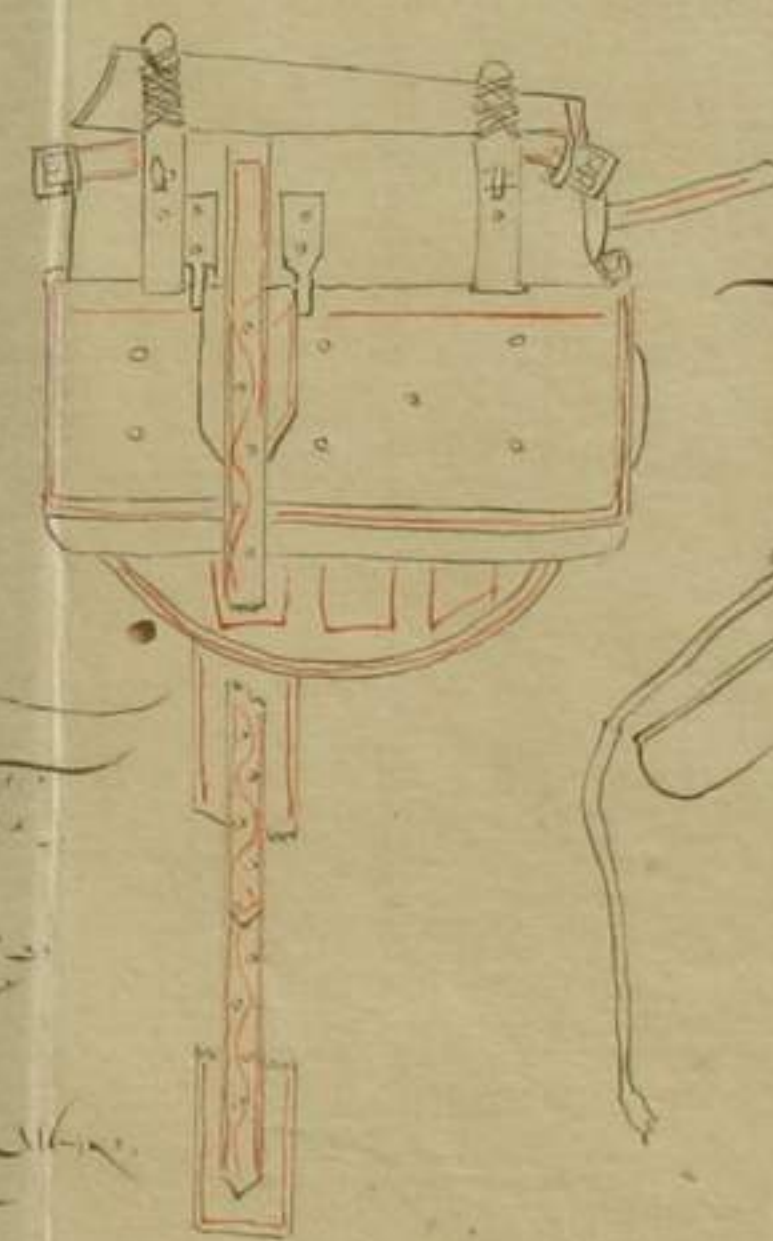


Fig 13.

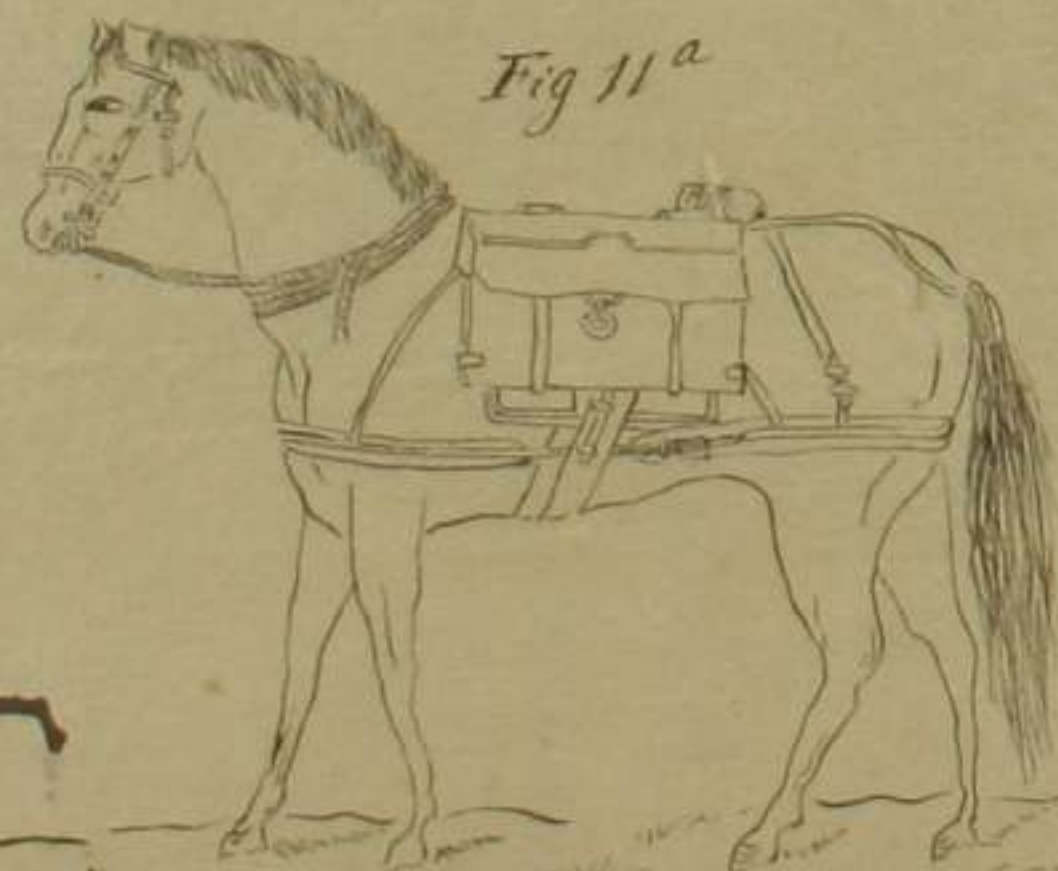
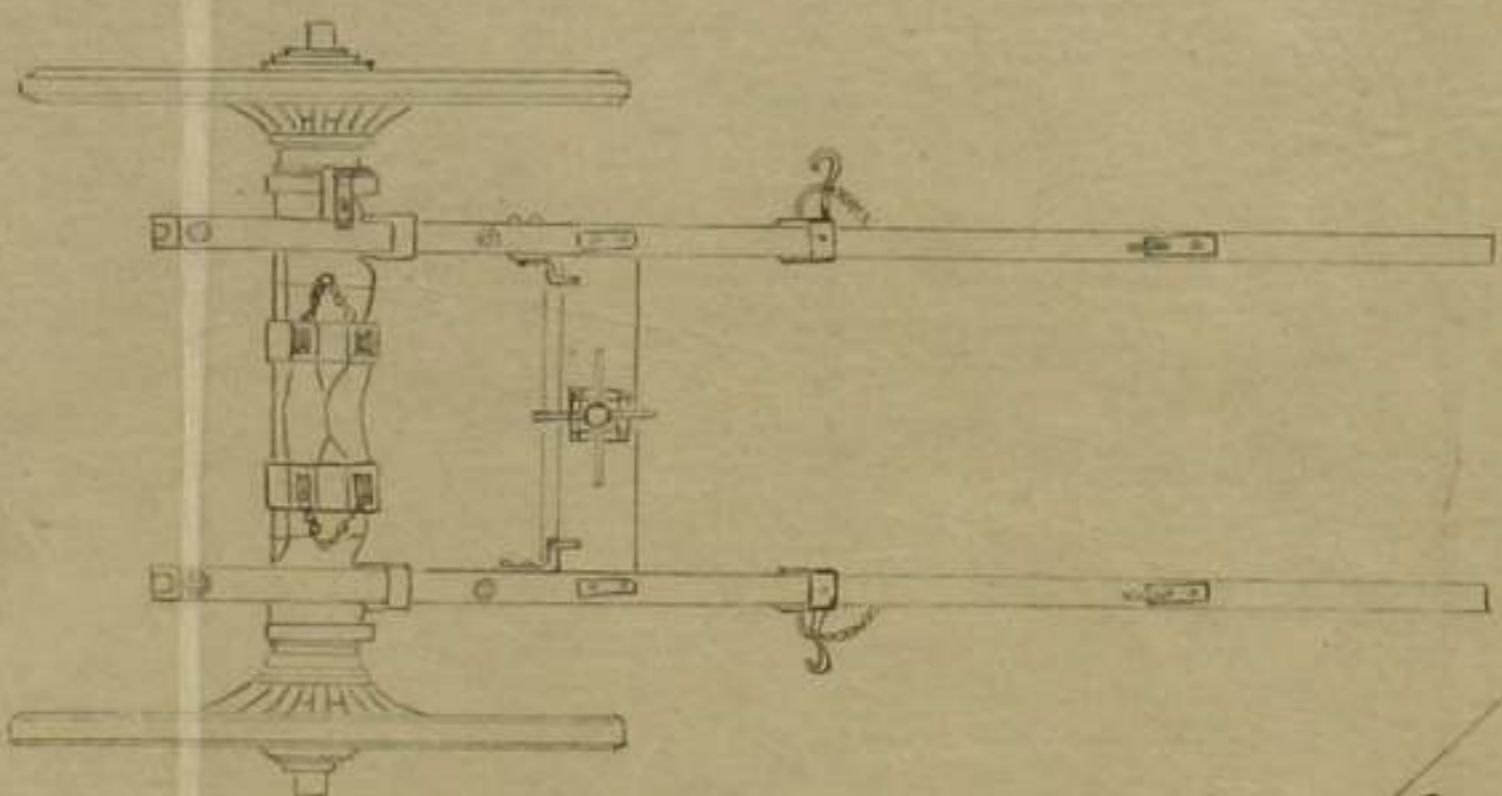
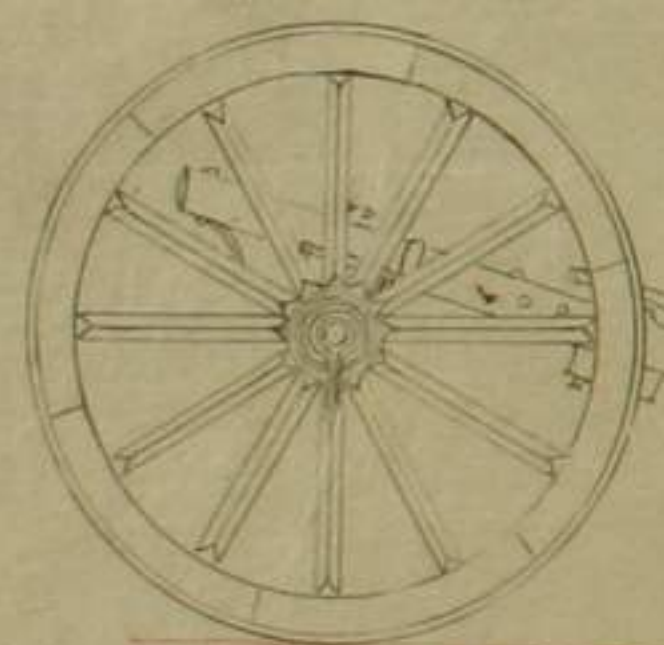
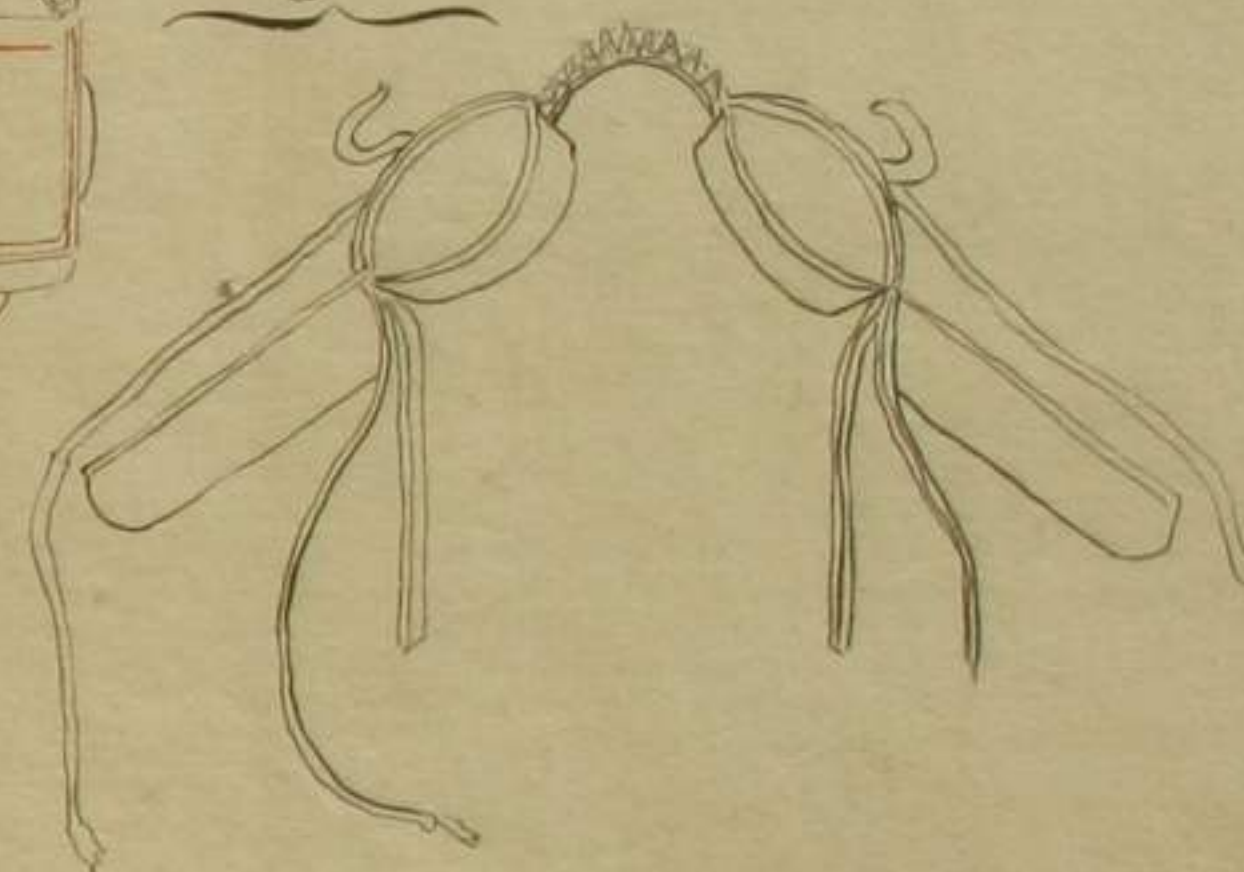


Fig 11^a

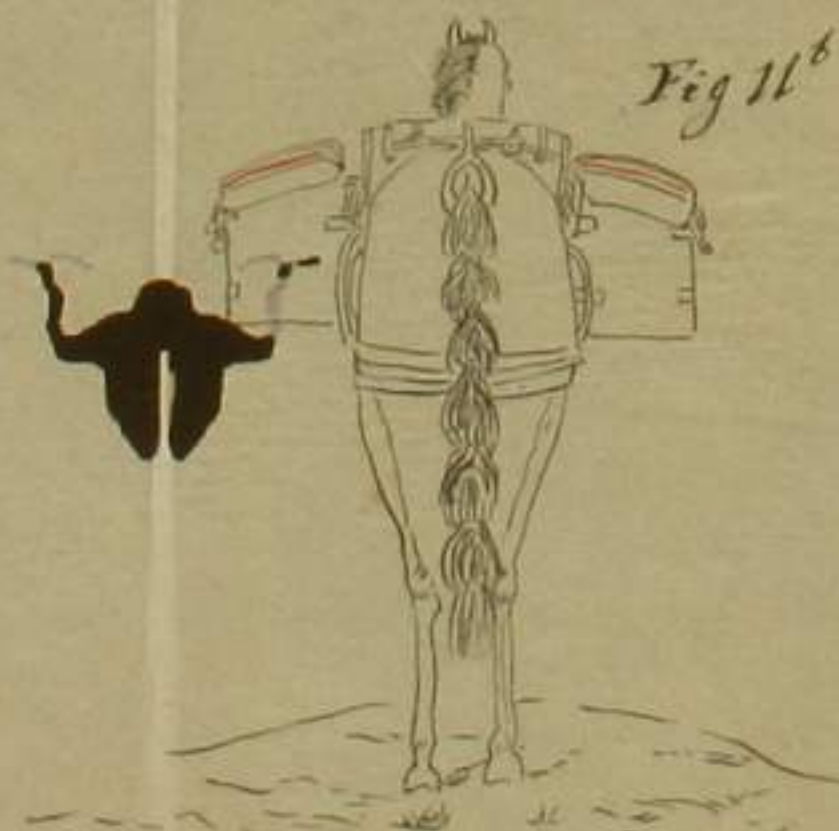


Fig 11^b

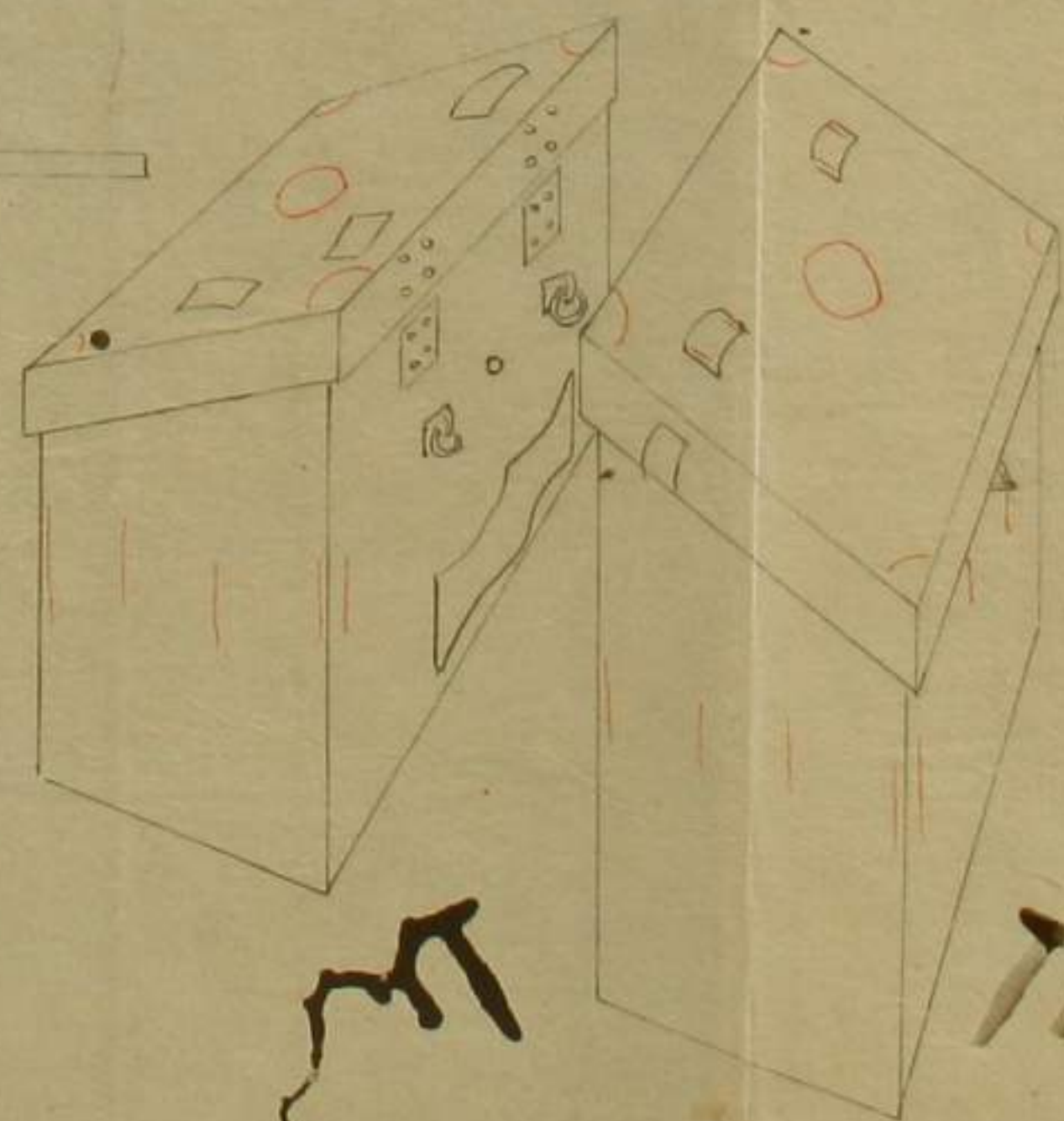


Fig 12.

